

この世大学入学案内（人生学 第11回）

高 橋 清 隆

はじめに

これまでの人生学で、いろいろな学びの仕組みについて述べてきましたが、ここで、それらをわかりやすくまとめて、「この世大学」の入学案内として紹介することにしました。地球での学びは、大学での学びの仕組みと似ているところがあるからです。

何だかふざけているような書き方だと思うかもしれませんが、いろいろ考え、大学の入学案内の形をとるのが、いちばん伝わりやすいという結論に達したのです。

1 入学資格

地球の「この世大学」では、人間に生まれてくる段階に達していれば、どなたでも入学可能です。国籍、性別、人種、民族、宗教、身分、身体的特徴、障がいの有無などは、仮のものであり、皆さんの生まれ変わりの中で、さまざまに選択していくものです。本質的なものではありません。

また、これまで、動物や空の雲の生まれ変わりを続けていて、今回初めて人間に生まれ変わる方の入学も歓迎いたします。人間の学びの仕組みに慣れていないため、周囲とうまく行かないこともあると思いますが、教職員一同、丁寧な教育をおこなっていきます。

他の星系からの留学も可能です。とまどうことも多少あるかとは思いますが、よく身に付く実践的教育で知られた地球のこの世大学をわざわざ選んで留学してもらえたことに感謝いたします。もっとも、現在、地球に住んでいる人たちは、みな、他の星系から移住してきたとも言われていますので、本来は、全員留学生なのかもしれません。

一度卒業した人の再入学も認めます。あまり例は多くありませんが、マザー・テレサさんのように、後輩への素晴らしいお手本となります。

入学試験はありません。

けれども、この世大学で、実践的な教育を体験したい人はたくさんいます。順番待ちの状態です。どうしても地球で勉強したいという意欲がまわりに認められれば、そんなに言うなら、あなたが先に行ってください、と言われて送り出されます。

ですから、退学（つまり自殺）することなく、卒業してほしいと思います。

2 入学前の心がけ

一般的な大学では、履修登録は、入学後、オリエンテーションをしてからになるのですが、この

世大学では、すべて、入学前（生まれる前）に行われます。

前世を終えた後、自己採点により、次の課程で学びたいことを、自分で計画することになっていますが、この世大学に入りたい気持ちが強すぎて、前の課程の修了直後に、あせって入ってくる人が時々います。

それでもかまいませんが、できれば、少しじっくりと学生便覧や講義内容を読んでから決めても損はありません。あの世では、時間というものはありませんので、あわてる必要はありません。

人生学の第4回でお話したように、保護者の方々やまわりの方々と、よく相談して進学を決めて下さい。この世大学では、さまざまな履修形態がございますが、いっしょに入学してくる同級生（ソウルメイト）とのかかわりが大変重要になります。

教員の教えは、原則として、日常のありふれた出来事の中に隠されています。いつまでたっても先生は来ないじゃないかと言う学生が時々いますが、同じ授業を受ける仲間とのかかわりが、授業そのものなのです。

一つだけ、注意事項があります。

授業はどのようにも組み立てられるので、俳優になるのも、小説家になるのも自由ですが、復讐を中心に据えてしまうと、大学生活がつまらなくなります。復讐を成し遂げるのも自由なのですが、生まれた時から、復讐する人生を確立するために、一般に言う不幸な設定をせざるを得なくなるのです。愛情あふれる環境に育つと、エネルギーは復讐には向かいづらくなります。復讐を行うためには、とにかくひたすら、否定、疎外、対立、暴力などの環境の中に身を置くこととなります。普通に考えれば、あまりにも楽しくない設定ですが、前世での出来事で、復讐したい気持ちが強すぎると、それしか見えなくなり、殺人犯になってしまうことがしばしばです。

しかも、その次の生まれ変わりでは、殺される立場に自分を追い込むことが多くなります。

楽しくない人生を選ぶ自由というものもあるし、それもまた学びではありますが、そこから抜けるのがしばらく困難になったりするので、なるべく避けた方が賢明かと思います。

3 受講態度

「今、目の前のことをする」と言ったのは小林正観さんですが、この世大学では、前世のことを覚えている必要はありません。

前世でできなかった課題を中心に履修登録することが多いのですが、前世のことを覚えている人はほとんどいないのに、前世からの課題をやっても意味がないのではないかと言う人が時々います。けれども、この世大学では、大学入学前に、完璧に授業計画を立ててくるので、あとは、それに沿って学んでいけばいいのです。この世大学での、目の前の授業に集中することこそ、もっとも効率良い勉強なのです。

前世について誤解している人が多いように思います。

霊能者が、あなたの前世は何々だったと指摘した場合、聞いている方としては、それが自分の前

世のすべてだと思ってしまいがちです。けれども、それは誤りです。前世は、何百回とあるのです。それらのすべてを指摘するのは無理ですし、あまり意味がありません。「あなたの前世は貧しい農民でした」と言うと、まず間違いなく当たってしまいます。霊能者がわかる前世というのは、その人が、今かかえている問題に関係した前世だけです。

例えば、学生さんの年齢で言うと、20歳まで生きてきた人がいるとします。その人にはいろいろな思い出があると思いますが、20年間、約7305日（7300日でないのは閏年があるため）のすべての場면을細かく覚えているわけではありません。辛かったこと、うれしかったこと、それらのどちらでもないことだけれど妙に心に残っていることなど、私たちは、その時に応じて、「思い出」を約7305日の中から取捨選択しているわけです。

それと同じように、前世も、1回や2回ではない人の方が、はるかに多いのです。全部を記憶していても、この世大学では混乱するだけです。前世の記憶は、多くの人にとってはむしろ邪魔なので、持って来ない人の方がはるかに多いのです。

授業中、別のことを考えていると、大事なことを聞き逃したりしますね。

やる事は、自分で準備してきていて、あとは、時間割に従って、授業を受けていけばいいのです。前世の課題を忘れても、この世大学での授業をきちんと受けていけば、死んだあとに後悔することはまったくありません。

4 履修登録

私たちは、一つの人生を終えると、その人生を振り返り、多くの人は、人に温かくできなかったことの中から、自分なりの課題を見つけて、次の人生の履修登録をします。

現実の大学では、半期が始まる前に履修登録を行います。これからの半年、どの授業を受けるか自分で決めるのですが、必修科目以外は、誰かに強制されて取るということは、普通はありません。自分の学びの目的に合わせて、自分で決めるのが基本です。人生もほとんど同じです。

さて、私は、授業の時に、学生に、「今年の〇月〇日の午後〇時に、〇〇さんは何をしているか予想できますか」という質問をすることがあります。初めは、そんなことを聞かれても、わかるわけがないという顔をするのですが、ふと気づく学生もいて、「この授業に出ています」と答えることになるのです。授業を休むという選択も可能ですが、特に用事ができなければ、同じ授業に出ている可能性が高いし、そうする方が、単位を落とさずにすむとも言えるでしょう。

このように、誰かに決められた時間割ではなく、自分で決めた時間割に従って授業が行われることになっているのです。

人生に偶然はない、というのはこのことです。

私たちは、現実の大学とは異なり、自分の人生の時間割は、把握していないように見えますが、実際は、いつ何が起るかは、自分の想定どおりなのです。

ですから、将来何が起るかを気に病んでも仕方ありません。自分が決めてきた時間割どおりの

ことが起こるのです。そして、それぞれの授業に、自分の学ぶ意味が持たせられているのです。

大学の授業では、当たりはずれがあったり、日によっては、詰まらない授業があるかもしれません。

けれども、実際の人生では、すべてが無駄のないように配置されていて、その時その時でちょうど良い授業を受けるよう、セットされているのです。

ですから、運が良いとか運が悪いとかということもありません。カリキュラムがあるだけです。人生に起こる出来事について、幸運や不運は、本当はありません。すべてが、自分の計画なのですから。

ただし、その授業について、どのように思うかは自由です。

自分で計画してきたのだから、良いとか悪いとか、幸運だとか不運だとか、あまり評価をしない方が良いでしょう。

また、何々をしなければ不幸になる、ということは本来ないはずですよ。

5 単位互換制度と資格取得

前世で取得した単位は、基本的に引き継がれます。

私たちは、死によって、すべて遮断されているように感じているし、前世の記憶もはっきりとはありませんが、人によって、能力の差は様々ですし、同じ家や環境に育ったきょうだいでも、あまりに食べ物の好みが違ってことも珍しくはありません。遺伝子は似ているはずだし、育った環境や食べてきたものも似ているはずなのに、きょうだいで、食べ物の好き嫌いがはっきり違うことへの明確な説明は、この世のこの世のみではしにくいのです。

死によって私たちの人生は遮断されることはありません。すべてつながっているのです。ですから、天才というのは、存在しません。これまでの生まれ変わりにおいて、どれだけその分野の経験を積んできたか、にかかっています。もちろん、すべてを、一つの人生に持ってくるのではなく、その人生の学びに合わせて持ってくるのであり、それまでの前世で絵を描く経験を積んできた人でも、あえて、その回の人生には、その才能は持参しないことも多々あるのです。

あえて、ほとんど何も才能がないように生まれてくる学びもあるのです。

一度の人生は、あの世の尺度で見ると、一コマの授業時間、すなわち、90分ぐらいに当たるのかもしれませんが。あるいは、3日間びっちり行う集中講義に相当するという人もいます。

90分にしろ3日間にしろ、それではあまりに、この世を短く見すぎているのではないかと思う人が少なくないかもしれませんが、私たちが、人間を卒業するまでに、数百回生まれ変わることを思えば、あながち極端なたとえでないことがわかると思います。

90分というと、やる気のない人にとっては、やたらと長い時間に感じます。けれども、授業する立場から言えば、一回の授業でやれることは限られています。あまり欲張って、いろいろ持っても、使わない才能も多いのです。

大体の人は、いくつか選んで、前世で取得した資格や才能を持ってきます。

それは自慢したり、他の人より優れていることを証明するためではありません。あの世にいれば、人より優れていると威張るのは無意味だとわかります。

それを徹底するため、この世で、自分の才能をあまりにひけらかすと、次に持っていく時には、自分で減らさざるを得なくなります。さらに、自分の才能を、人を傷つけたり、人のエネルギーを減らすようなこと、わかりやすい例で言えば、犯罪などに使ってしまうと、積み重ねてきた才能などを自分で減らすことになるのです。

6 定期試験

実際の大学においては、半期ごとに試験をする科目も少なくないと思います。

けれども、昔と違って、授業一回一回を大切に、その回ごとに小テストをやったり、ミニレポートを書かせたりする科目も増えてきました。

この世大学においては、試験期間というものではなく、毎日が試験期間と言えましょう。それでは緊張感が強すぎて、身がもたないと考える人もいるかもしれませんが、それほど深刻に捉える必要はありません。

私たちは、普段の生活においても、様々な選択に迫られていることが多いのです。

例えば、路線バスから降りる時を考えてみてください。乗る時に料金を払うシステムのバスはまた別になりますが、静岡では、乗る時も、降りる時も、運転手さんの横を通り、降りる時に料金を支払うことになります。

その時に、どういう態度をとるかは、その人に全くまかせられています。「ありがとうございます」と言って、笑顔が降りるでしょうか。何も言わずに、むすっとして降りるでしょうか。友達と話をしながら降りるでしょうか。料金を支払って降りるのであれば、どの降り方をしても、罰せられることはありません。

けれども、その降り方は、自分が相手から、してほしい降り方なのです。

あるファミリーレストランで、支払いの時も、ずっと携帯電話で話をしている人がいました。だからと言って、それを注意してくれる人は、あまりいないのかもしれませんが。逆ギレされて、暴力をふるわれることもある世の中です。しかし、店員さんのいない自動支払システムならともかく、店員さんがいるにもかかわらず、携帯電話で話し続けながら会計をするのは、完全に、目の前にいる店員さんを見殺ししていることになります。その人は、その人生か、そう遠くない未来世において、目の前の人に見殺されるという授業を受けることになるのです。罰としてではなく、自分の学びが足りなかったということで、自分が設定してくるのです。自分が他人からいやなことをされた時に大変腹を立てる人がいますが、前世あるいはその人生の過去において、自分が人に対してやったことなのに、とってしまいます。

7 ユニット制

ユニット制というのは、どこの大学でもやっているわけではなく、私の勤めている静岡英和学院大学短期大学部の現代コミュニケーション学科で採用しているシステムなのですが、この世大学も実はユニット制なのです。

この世では、現在の日本での人生は平均90年前後ですが、あの世から見ると、先程も述べたように、一般的な大学の授業の1～15コマぐらいの長さなのだそうです。どんなに欲張っても、それほど多くの分野は学べません。目標をしぼって学びに来ています。

見識が広いといばってみても、実際はたいしたことはないのです。見識の広さを自認しているような人でも、あの世のことまでわかっている人はあまりいません。

また、「神」からのお告げだとかということで、いろいろな指示をする人がいますが、残念ながら、本当の神が私たちに具体的に指示をすることはありません。神のようなふりをしてあの世からいろいろお告げをしたがるのは、あまり感心しない存在であり、その指示に従ってろくなことはありません。仮に失敗するにしても、自分で考えて失敗した方が、はるかに勉強になるのです。

それはともかく、いろいろやってみるのは、英和の現コミと同じでかまいませんが、自分の人生の課題を、授業のあり方から探るのは、そう難しいことではありません。それがユニット制の良さとも言えるでしょう。

自分の生きている意味や、人生の目標が何だかわからない人は多いのかもしれません。

けれども、やるべき授業は、その時間になると、きちんと開講されて、その教室に誰もがいます。

恋愛でもめていれば、その時点での課題は恋愛なのでしょうし、いろいろ理屈をつけて就職しない状態であれば、理屈を言わずに就職した方が良いということでしょうし、ちょっと引いてみると、実はその時の課題というのは、すぐ見えるものなのです。

この宇宙に「正しい正しくない」はないということは、これまで何度も述べてきました。

家庭でも、職場でも、もっと大きなことでも、自分が「正しい」と言うのをちょっとやめてみればいいのに、ということが多くあります。

また、自分は自然食品しか食べない、という人の中には、自分は大量生産品を食べるような人たちとは違って偉いんだ、という態度をとるような人もいます。たいしたことのない人なのになあ、と思うこともしばしばです。

こだわりが自分を窮地に追い込むことも少なくありません。

この世大学では、自分はたいしたことがないのだから、謙虚に学ぶという姿勢を身につけるのは大切な課題です。

何かを発見・発明した、何かで優勝した、賞をもらった、とか、それはそれで意味があるのですが、そのように予定してきたのですから、いばるようなことはありません。何かすごい発見をしたと言っても、それはもともとあったもので、海岸を歩いていて、きれいな貝が落ちていたとい

うことほどのものかもしれないのです。それらの価値を否定しているわけではありません。何かをしたからと言って、自分は選ばれた人間だとか、特別な人間だとは思わないようにした方がいいということです。

あの世から見ると、いばることほど見苦しいことはありません。

この世からでも、いばる様子を見るのは、気持ちの良いことではありません。

8 就職

大学を卒業した後、絶対に就職しなければならないという規則はありませんが、就職は、この世では、とても効率の良い学びです。お金がもらえる上に、この世での勉強ができるので、これほど「お得」な制度はないと言って良いでしょう。

この世だけから見ると、仕事をするのは辛いと思えることが多いのかもしれません。しかも、世界的に見て就職難ですし、現在の経済の仕組みは、そろそろ変えた方が良くとも思います。

本来、仕事というのは、相手に温かくする学びの、実践的なものです。お金を得て生活するために働くと思っている人が多いようですが、仕事のいちばん大切なところは、自分のエネルギーを相手のために使うということです。この学びを実践するために私たちは生まれてきていると言えるので、お金が有り余っていても、仕事をしたほうが、得だと言えるでしょう。

仕事をしたくても、なかなか仕事に就けないという状況もあると思います。その状況は人それぞれですが、中には、あれがイヤだ、これがイヤだと言って、なかなか就職しない人がいます。向き不向きはあるかもしれませんが、それをあまりに言う人は、就職しづらいことは確かです。あまりに仕事を選り好みする人というのは、ある意味、他の人に温かくしたくない人という場合が往々にしてあるようです。

それから、「成功」ということについても述べておきましょう。一部に、お金持ちになると、その人生は成功した、夢を実現したという考え方がありますが、それは残念ながら違ってきます。いくらお金持ちになっても、自分のことしか考えていなければ、その人の人生はあまりうまく行っただとは言えません。お金持ちは天国へ行くのが困難とする宗教があるのは、富を得ることが成功だと思わないようにするという戒めの意図があるように思われます。実際には、お金持ちでも天国に行く方法はあるのですが、お金持ちになると、お金の囚われる人が多くなってしまうのも、また現実と言えるでしょう。

一般的に言う「成功」が偉くないのは、生まれる前に、そうなるように決めてきただけのことであり、本人がすばらしいからではありません。それを、自分がすばらしいから成功したと考えるのは、大きな勘違いです。

成功した時にどういう態度をとるかが大事です。いばるのはよくありません。

9 サークル活動

大学は、勉強ばかりではありません。サークル活動があったり、ボランティアをしたり、ただ単に友達と遊ぶ時間があっても良いし、恋愛などということもあります。

この世大学も、勉強だけでは味気ないと思います。

授業を受ける時、学ぶ手段は様々です。

どうしても飛行機を操縦したいという人であれば、パイロットになる課程を履修し、そこから様々なことを学びます。

女優にあこがれ、この人生では無理でも、次に生まれ変わったら、是非女優になりたいと、一生思い続けた人は、次は、女優として生まれ変わることができます。決めるのは本人ですから、ほぼ確実に言うて良いでしょう。

どのような設定、職業を選んでも、学ぶことの本質はそう変わらないようです。

人付き合いが苦手なので、引き籠もって陶芸家になりたいと思って、本当に陶芸家になったら、結局は、人付き合いが大切だということに気づくことになったりします。人と付き合わず、引き籠もっていたら、全く売れませんから。

ともあれ、この世だけから見ると、なりたい職業に就けないこともしばしばですが、生まれる前の履修登録では、とりたい授業は確実に取れるのです。

ですから、いやいや就いた職業だと思っていても、本当は自分で選んでいるのです。

大学のサークル活動のように、もう少し、ゆったりした気持ちで、大学生生活を味わう余裕も必要かもしれません。

10 退学について

この世大学で言う退学は、自殺ということになるわけですが、自殺して解決する問題はありません。それどころか、せっかくそこまで授業を受けて単位をとってきたのに、場合によっては、その人生での単位がパアになってしまうことにもなりかねません。

テレビゲームのように、自殺してリセットし、またははじめから、何事もなかったように始まるという都合の良いことにはなりません。

自殺するということは、何かに囚われることです。病気にしろ恋愛にしろ人間関係にしろ、囚われたまま、あの世に行くことになるので、当面、と言っても、この世の尺度で測ると、延々とその囚われに自分を縛りつけておくということも少なくありません。

自殺してしまった人に対して、非難を述べているのではありません。

自殺は、何より、してしまってから、損をしたと思うようです。

それ以前の問題として、自分を押し込めるので、苦しい期間が続いてしまうのです。

現実の大学では、退学して、働いたり、別の道を進むということで、前向きな退学もあると思い

ます。

けれども、この世大学での退学すなわち自殺は、届け出のない履修放棄になってしまい、今後の展開に響いてしまうのです。この世大学には、退学（自殺）に対する罰則規定はありません。けれども、自分で自分をおかしなところに追い込むことになるので、罰則を受けるより、はるかに厄介なことになってしまうのです。

11 みんなで楽しく学びましょう

勉強とか仕事とか、スポーツの練習とか、みな辛いこと、苦しいことだと考えられています。そこで努力ということが大切だとされています。

けれども、いやいややっていることには限界があります。

いやいややっていると、病気になりやすくなります。努力というのは、いやなことを無理に続けるという意味合いがあるので、最近では、努力ということから転換していく傾向にあります。

仏教で言うように、生老病死は、それぞれ苦という考え方があります。

けれども、どうでしょう。

生まれること自体が苦だと言いますが、私たちは、学びたくて、人を押しのけてでもこの世大学に入ってくるのです。しかも、入ってみて、入学案内とは違っていたから、二度と入るものかと思う人がいるかという、そうでなく、何百回と入ってくるほど病みつきになっているのです。実際は何百回も生まれ変わらなくても卒業できるはずなのですが、地球のこの世大学かぶれになってしまう人は多いのです。生が本当に苦なら、最低限の回数で良いはずなのですが、自主留年続出傾向なのです。

老はどうでしょうか。私も、親の世代にしてみると定年の年齢になってしまいました。今はそれより10年ほど定年がのびていますし、私の年齢で現実的におじいちゃんになっている人は少なくなりました。結婚の年齢も高くなってきています。60歳の人に高齢者と言うと叱られる時代になりました。それでもやはり、年齢が進むと体の方は若い時とは同じようには行かないことは実感しています。若い頃には当たり前だった体の機能も、当たり前ではなかったことに気づきます。けれども、困ったことばかりではありません。運動があまり得意ではなかった私にとっては、同級生がみな歳をとることにほっとしています。昔スポーツマンだった人も、おなかが出て、激しい運動をすると具合が悪くなる人がほとんどになってしまいました。これは運動神経のよくない人が目立たなくなることです。美貌も歳には勝てません。美熟女などというものもありますが、若い頃ほどは、美人かそうでないかは問題でなくなってきました。容姿のことで悩む女性が多いようです。けれども百歳になって美人だといばっていても失笑されるだけでしょう。歳をとって、みな同じようになっていく、というのは、有り難いことですし、大きな学びです。若ければ良いというように人生はなってはいないのです。どの年齢の時も、それなりの学びがあるのです。美人だからといってちやほやされると、むしろ害の方が多いこともあるのです。

病は、良いこととは捉えない人が多いと思います。病気を苦にして自殺する人もいるほどです。けれども、病気というのは、反対側から見てみると、貴重な学びの機会になっています。慰めや負け惜しみではありません。また、病気は、罰や祟りや憑依だとするのも見当違いです。レベルの低い霊能者には、憑依のように見えることもあります。先祖の霊や自殺者の霊が憑依しているのではなく、自分自身の囚われや憎しみが濁って見えるのです。ですから、いくらお祓いしたり除霊したりしても無駄です。囚われや憎しみを捨てるのが解決の道なのです。本人の問題であり、いくらお金を積んでもどうしようもありません。病も似たようなところがあり、本人の課題を浮き彫りにしてくれる有り難いものです。病が治る方向に行くためには、囚われやひとりよがりの「正しさ」を捨てる必要があるかもしれません。あるいは無理に治すのではなく、病と付き合っていくことにより学ぶという場合もあるでしょう。病を悪いものだとか、不幸・不運と考えるのではなく、学びの機会と捉えれば、その後の展開がだいぶ違ってきます。

そして、死というのは、生まれ変わりの観点からすると、存在しません。この世にいる時には、あの世がどうなっているかわからない状態で勉強しているので、死が怖く感じられます。それだからこそ、この世で生きている時間を大切にすし、自分の命、他人の命を大切にすることを学ぶのです。死は終わりではないし、死んだり殺したりして解決する問題はありません。むしろ、問題がより複雑になるだけです。自殺すると救われないということはありますが、とにかくさらに厄介なことが山積してしまいます。宿題を放っておいて、夏休みに遊び呆けているようなものです。この世大学での宿題は自分で自分に出したものなので、どの先生よりも厳しくチェックされます。ため込んでおいて、あとでやればいいというのは、甘い考えです。少しずつやればどうということのないことでも、まとめてやるととても処理しきれないということは少なくありません。そういうことを招いたのは自分なので、自分は不幸だと嘆いてみても仕方ありません。毎日着実に宿題をした人から見ると、不幸なのではなく、だらしなかつただけではないか、と思えるのです。実際、この世に不幸はありません。それぞれの人の思いに生じるものが不幸であり、いろいろなものを不幸だと捉える人が、不幸になるのです。そして、何度も思ったことは癖になり、不幸癖がついてしまうのです。

大学生活を楽しくするのは、自分にかかっています。

何かすると、自分の外のものを非難する人がいますが、非難屋さんに優れた人はいません。責任転嫁をしているだけなのですから。

勉強も工夫すれば楽しくできます。どうせなら、辛い苦しいなど言わずに、楽しい大学生活を送ってほしいと、私たち一同、心から願っております。